



精神医学の卒前教育を考える

コーディネーター 神庭 重信

卒前教育では精神医学は、医学教育モデル・コア・カリキュラムに取り入れられ、また新卒後臨床研修でも精神科での研修が必修化されるなど、精神医学は医学の中で一定の評価を得ています。この流れを定着させるためには教育の充実が必要です。さらに、専門医制度も発足し、生涯教育の充実が図られようとしています。

一方、近年の医学教育の変革は急激であり、精神医学教育も大きく変わってきました。このような時期にあるからこそ、精神医学教育の流れを

読み取り、将来に向けてどのように進むべきかをしっかりと考えていく必要があります。

教育委員会では卒前教育の充実を図るために、今日の精神科医療に即した精神医学教育のカリキュラムを検討することになりました。シンポジウムでは、専門医制度、卒後臨床研修、医学部 CBT 委員、文科省コアカリキュラム、国試ガイドライン、講座担当者会議教育委員会など精神医学教育にかかわる演者による講演を企画しました。